

酒井清子さん(87)。冗談が大好きなムードメーカー。健康長寿の秘訣は「なんでも好き嫌いせんと食べること」



ご長寿社会の
必読レポート

取材・文・撮影 末並俊司(介護ジャーナリスト)

合計264歳! 同じ話もご愛嬌! 理想の老後がここにある

認知症3人娘 あめちゃんず 爆笑ラジオ 今月も生放送!

忘れることや不便なことが増えても、楽しく生きられる——そんなことを教えてくれる、認知症の「当事者」によるラジオ番組がある。北九州市の老人ホームが取り組む「認知症おばあちゃん」たちの生放送ラジオに密着すると、つらいものと思いがちな認知症老後を明るく生き抜く知恵が見えてきた。



中村文子さん(90)。あめちゃんずのリーダー格。子供が大好きで、窓の外に姿が見えると「かわいいねえ」を繰り返す



天神ツキミさん(87)。実は恥ずかしがり屋だけど夫の話になると止まらない。笑い上戸で誰の話でも笑顔で相槌を打つ



放送前の一コマ。この日はご近所の赤ちゃんがゲスト出演。あめちゃんずは大喜びで代わる代わるあやした



メインパーソナリティはもやい聖友会理事長の権頭喜美恵さん。同じ話を繰り返すあめちゃんずを上手にリードする



番組アシスタントの小島成裕さんはあめちゃんずが住むグループホームの管理者でもある。この日はクイズの出題役

キャンティーズならぬ あめちゃんず

「次の曲は、都はるみの『好きになった人』です」

曲をリクエストしたのは、番組パーソナリティの酒井清子さん（87）。

「私の好きになった人？ 私の生まれて育ったところは田舎やけん、そんな気の利いた人はおらん」

曲の推薦理由を聞かれた酒井さんはそう答える。嘸み合っているのかいないのか、微妙だけど軽妙なやり取りが爆笑を呼ぶ。

福岡県北九州市にある認知症対応型グループホーム「あめちゃんず」。平均年齢88歳の現役ラジオパーソナリティだ。

北九州市若松区のコミュニティFM「エアステーションヒビキ」で月に一度第四金曜日の13〜14時に放送される「ラジオ@オレンジカフェ」にレギュラー出演している。

マネージャーを務める



天気の良い日はみんな揃って散歩に。この日は「リンゴの唄」を口ずさんだ



特養の1階に併設されたスタジオは全面ガラス張り。ご近所さんが足を止めることもしばしば



地域に根ざした運営の銀杏庵。1階ロビーのカフェはフリースペースとして使われ、地域のイベントが開催されることも



あめちゃんずは「グループホームもやい」からスタジオに出勤する

ホーム管理者の小島成裕さんが胸を張る。

「昭和のアイドル、キャンディーズ」を日本語訳しました。今では、なくてはならない番組の顔です」

あめちゃんずは全員がアルツハイマー型の認知症を患っている。けれど元気がいっぱい、お喋りも大好きだ。時に同じ話を繰り返すこともあるが、皆が初めて聞くかのように相槌を打つ声は、多くのリスナーの支持を集める。12月で24回目の放送を迎える人気コンテンツとなった。

番組を企画したのは、同ホームを運営する社会福祉法人もやい聖友会の理事長・権頭喜美恵さんだ。

権頭さんは、優しい語り口で番組を進行し、時に冗談をはさみながら、あめちゃんずの魅力を引き出す。「最初はみなさん、こんなにお喋りはしてくれなかったんですよ。でも、最近はずっと喋りっぱなしです」戦争。結婚。子育て。仕事。出会いや別れ……。長

い人生を背景にしたトークは深く広い。

最年長は中村文子さん(90)。自己紹介は決まって生年月日からなのだが、「昭和5年6月3日生まれの80歳」

とサバを読む。「中村さん、90歳ですよ」進行役の権頭さんに訂正されても、気にせず「ああそうか」とニコリ。

実家がちくわやかまほこなどを扱う練り物屋さんだったという酒井さんは、現場のムードメーカーだ。「年なんか忘れてええんよ。忘れるけん楽しんでえもんね。今度うちのかまほこ持ってきちゃる。おいしいよ」

お店はとうの昔に閉めてしまったが、酒井さんの記憶の中では健在だ。

天神ツキミさん(87)は夫が大好きだ。事あるごとにのろけ話が飛び出す。「いくら年をとっても、うちの人はあんぼんたん。だけどいい人なんよ。だから今でも仲がいい」

残念なことに現在夫は別



ホームのすぐ隣にある公園。木陰のベンチがあめちゃんずの指定席

「年なんか忘れてええんよ。忘れるけん楽しんやもんね」

の施設に入居しており、離れ離れの暮らした。

「でも心はいつもうちの人を思っているの」(天神さん)

認知症への 偏見をなくす

放送が行なわれる「もやい通りスタジオ」は、もやい聖友会が運営する特別養護老人ホーム「銀杏庵穴生倶楽部」の1階に併設されている。

「ここではあめちゃんずの番組だけでなく、地元のフットサルチームのメンバーやパフォーマーの方などの番組も発信しています。誰もが使える場所として地域のお役に立てればと考えて、2012年にオープンしました」(権頭さん)

権頭さんがあめちゃんずの起用を考えたのは、認知症への偏見をなくしたいからだった。

「認知症になったら何もわからなくなると思ひ込んで、いる人がまだ多いのですが、あめちゃんずのお喋りを聞いてもらえれば、それが間

違いであることがわかるはずです」(同前)

番組の立ち上げ当初は、メンバーを固定せずに、別の出演者もいたというが、回を重ねるごとに、3人の相性の良さが際立つようになった。

「1年ほど前からあめちゃんずを結成し、以降はレギュラーとして頑張つてもらっています」(同前)

コロナのおかげで面会の制限もあるなか、月に1度の番組を通して元気な様子を確認する関係者や家族も多いという。

「放送を通じて認知症に対する考えが少しでも変わってくればと思つています」と権頭さんは言う。

放送の様子はYouTubeでも視聴可能だ。

「気が向いたら見ればよかよ」(酒井さん)

聖友会(福岡県北九州市八幡西区)はラジオのスタジオがある「銀杏庵穴生倶楽部」をはじめ、グループホームやショートステイなど複数の施設を運営。あめちゃんずが暮らす「グループホームもやい」(北九州市八幡西区)は定員18人。家事など自分のできることをこなしながら共同で生活する